



# 伊藤青少年育成奨学会 奨学会だより

2006.10.1

vol.3

年2回発行  
(4月・10月)

- 恵那市に図書館を寄贈
- 平成18年度スポーツ振興事業贈呈式
- 「いわむら一斎塾」が伊藤喜美賞を連続受賞
- 奨学生の声

シリーズ 第3回 この本をあなたにも薦めたい



▲ かま入れをする伊藤喜美理事長＝恵那市長島町中野

## 2006年度 上半期トピックス

恵那市長島町中野の市有地に建設される「(仮称)恵那市中央図書館」の新築工事安全祈願祭が8月24日、同所で行われた。伊藤青少年育成奨学会の伊藤喜美理事長をはじめ、恵那市からは可知義明市長や山田幸典市議会議長ら関係者約三十人が出席し、工事の安全を祈願した。

2006年7月4日、セラミックパークMINO国際会議場(多治見市)において、第7回スポーツ振興事業贈呈式が開催され、岐阜県内27校34運動部に総額1,000万円の目録が手渡された。また、第3回伊藤喜美賞は、第2回に引き続きNPO法人「いわむら一斎塾」が受賞した。

## 恵那市に図書館を寄贈

奨学会は今年四月、総工費約十億円で図書館を建設して同市に寄付すると発表した。二階建て延べ床面積約二千五百平方メートルの新図書館の設計を検討する一方、自治会や市民団体の代表からなる「(仮称)恵那市中央図書館建設協議会」(小板清治会長)を立ち上げ、管理運営計画や組織体制などの協議、蔵書する本の種類や図書コーナーの内容などの選定作業に取り組んでいる。



▲ 握手をする伊藤喜美理事長(左)と可知義明市長(右)

祈願祭では、伊藤理事長が「文化都市恵那にふさわしい図書館が完成し、広く市民に親しんでもらえるような『知の殿堂』となることを願う」とあいさつ。可知市長は「図書館建設は永年の懸案だった。文化の拠点や子どもの教育の場、子どもとお年寄りの憩いの場として活用できる素晴らしい施設にしていきたい」と話した。

来年四月に竣工の予定で、新たに整備される図書館周辺の公園が完成するのは、同六月ごろになる見込み。開館は同八月を目指す。

## 趣意書

昨今の社会情勢を鑑みるに、社会構造の急激な変化によって、本来人間が構成すべき社会に、逆に人間が変容を迫られているような状況である。同時に、「郷土」という小さな地域社会も、「平成の大合併」の号令のもと、船出を余儀なくされている。海図も持たず、立ち止まることも検証すらできないまま、私達や私達の子供はその海にどう漕ぎ出していけばよいのか。

どのように社会構造が変化しても、生れ落ちた子供の成長に近道はない。語りかける母親の言葉から子供の世界は始まり、十年二十年かけてゆっくり大人になってゆく。同様に人間社会も千年二千年かけてゆっくり成熟してきた。

人が生まれ、家族を愛し、友をつくり、郷土を誇らしく思うようになることと人間性・社会性を形成獲得していくことは同義語である。その最良の揺籃が知の結晶である図書館ではないだろうか。豊かな自然のなかの図書館で学ぶことを覚えた子供達は、どのような荒海でも雲間の北極星を捜すことをあきらめないでいてくれるだろう。そして私達を導いてくれるだろう。

現在、新恵那市総合計画の中で図書館整備が計画されていることを聞き及び、当財団はこれに賛同、青少年育成に寄与できればと思います。恵那市民が親しむことのできる「知の殿堂」としての(仮称)恵那市中央図書館を建設し、永きにわたって活用していただきたいと、ここに寄付いたします。

これにより、紀元前、アレクサンドリア図書館が存在したという史実をもって、現在もアレクサンドリアという都市名が畏敬の念をこめて呼ばれるように、恵那市という名が百年千年後、大きな名前に育つことを祈っております。

平成18年4月11日

財団法人 伊藤青少年育成奨学会  
理事長 伊藤喜美





## スポーツ振興事業として 総額1,000万円を援助

7回目となる2006年度のスポーツ振興事業には、過去最高の39校70部から応募があり、厳正なる審査が行われた。その結果、平成17年度県高校総体で女子団体が準優勝している岐阜高校テニス部、ホッケー王国岐阜の一翼を担っている岐阜各務野高校ホッケー部、ハンディキャップを乗り越えて全国視覚障害者駅伝大会などに出場している岐阜盲学校陸上競技部など、27校34運動部が支援対象に選ばれた。

7月4日に行われた贈呈式には各校の代表者らが出席し、伊藤喜美理事長から目録などが手渡された。

### 平成18年度 (財)伊藤青少年育成奨学会スポーツ振興事業等被援助団体及び援助額

県下の高校運動部に対する資金援助

学校名	部 名	金額 (円)
岐阜高等学校	テニス	400,000
加納高等学校	硬式野球	400,000
県立岐阜商業高等学校	空手道	300,000
	剣道	200,000
	女子バスケットボール	200,000
岐南工業高等学校	陸上競技	200,000
岐阜各務野高等学校	ホッケー	600,000
岐阜工業高等学校	サッカー	300,000
岐阜盲学校	陸上競技	100,000
鶯谷高等学校	柔道部	300,000
大垣商業高等学校	体操・なぎなた	400,000
大垣日本大学高等学校	レスリング同好会	200,000
大垣養護学校	サッカー	200,000
郡上高等学校	男子バレーボール	200,000
加茂高等学校	ボート	500,000
東濃実業高等学校	剣道	300,000
	テニス	200,000
土岐紅陵高等学校	硬式野球	400,000
土岐商業高等学校	ウエイトリフティング	300,000
中津商業高等学校	スケート	300,000
	陸上競技 (駅伝)	300,000
東濃養護学校	サッカー	200,000
中京高等学校	サッカー	300,000
恵那高等学校	陸上競技	300,000
恵那農業高等学校	スケート	300,000
岩村高等学校	スケート	300,000
明智商業高等学校	軟式野球	400,000
益田清風高等学校	女子バレーボール	200,000
飛騨高山高等学校	女子ハンドボール	200,000
	柔道	300,000
	定時制バドミントン	400,000
飛騨神岡高等学校	登山	200,000
高山西高等学校	剣道	400,000
	男子バスケットボール	200,000
合計 27校 (34運動部)		10,000,000

## 第3回伊藤喜美賞は 「いわむら一斎塾」が連続受賞

2005年に設立された「伊藤喜美賞」は、我が国のよき伝統や固有の歴史・文化や教育のあり方を継承・発展させるために積極的に取り組んだ個人または団体を支援・表彰するもの。第1回は世界らん展で優れた成績を収めた県立恵那農業高等学校が、第2回は恵那市岩村町ゆかりの儒学者・佐藤一斎の教えを現代に伝える活動を行っているNPO法人「いわむら一斎塾」が受賞している。

第3回となる今回は、前回に引き続き「いわむら一斎塾」が特別賞を受賞。岩村町出身の偉人・下田歌子の教えをもとに絵本を作り、青少年や若い親たちに伝えていこうとする活動が評価されたためである。今回制作される絵本は、若い保護者の家庭教育意識を高め、特に、いずれ母となる女子の教育の重要性を啓発する市民社会教育活動の一助となるよう、恵那市内の保幼小中の全PTA会員（保護者、教員）を中心に約8,000部無料で配布されることになっており、更に、一斎塾より園や学校の家庭教育学級に講師を派遣し、本冊子の内容を元に家庭教育の在り方の啓発活動を展開する。

また、今年度の奨学生特別賞は、平成14年度奨学生の中から沼波悟古さん（名古屋大学医学部医学科）へ贈られた。

### ●賞の種類

最優秀賞 (1点)：賞状および賞金 (200万円)

優秀賞 (3点)：賞状および賞金 (各100万円)

特別賞：I 表彰状および助成金 (金額未定)

II 記念品および奨学金の延長による支援

(※選考の結果、該当者がいないこともあります)

## 下田歌子

— 我が国の現代女子教育の先覚者 —

下田歌子は安政元（1854）年、岩村藩（現・恵那市岩村町）の藩学・知新館で代々教授を務めた平尾家の長女として生まれ、鉞（せき）と名付けられた。5歳で和歌や漢詩を作るなど、幼いころから神童ぶりを発揮したが、維新後、新政府の招聘を受けた祖父や父を追って17歳で上京、自らも女官として宮中に出仕し、皇后（のちの昭憲皇太后）に仕えることとなる。とりわけ歌才を愛でられ、皇后から「歌子」の名を賜った。

下田猛夫と結婚して宮中を辞すが、自宅にて「桃妖女塾」を開いて政府高官らの妻たちに古典や作歌を教えた。明治18（1885）年、当時新設された華族女学校の教授として迎えられ、翌年、学監に就任。明治26（1893）年から女子教育の視察のために欧米をまわり、「日本が一流の大国とならんためには、上流女子のみならず大衆女子教育こそ必要」と考え、帰国後「帝国夫人協会」を設立し、現代女子教育の発展に大きく貢献した。こうした活動の一環として、明治32（1899）年、実践女学校（現・実践女子学園）が設立されている。

タナハシ シンヒチ  
**棚橋 新七**

筑波大学 工学システム学類4年 (恵那高校)

私の研究室はVR研と言い、バーチャルリアリティについて研究しているところで、視覚、力覚、触覚、食感、歩行に関するものなどいろいろあります。例えばプロジェクターを用いて360°すべてをディスプレイを実現し、まるで仮想現実世界にいるかのように感じさせる装置や、その場で歩行をする装置や、仮想現実(パソコン上のCG)の触覚(ザラザラや、ゴムっぽい感じ、水の中、サラサラなど)を感じる事ができる装置などがあります。

私はまだ配属されたばかりですので、どの部類を担当するかは決まっておらず、7月までは自由課題をする事になっています。これはモーター、センサーを用いて簡単なバーチャルリアリティを作るもので基礎が詰まっているので、しっかりと制作したいです。

奨学会からのコメント

仮想現実の技術で、視覚障害者にあたかも目が見えているのと同様の信号を送ることができる、というような研究はありませんか。

ムラカミ サトシ  
**村上 暁**

岐阜大学 農学部4年 生物資源利用学科 (多治見高校)

生活面でも書いたように、研究室での研究が学業、生活の中心になっています。私が配属されたのは、植物細胞工学の研究室で、主に遺伝子を扱う研究を行っています。自分の希望する研究内容の室に入ることができたので、毎日の研究がとてもためになっています。私が主に行う研究は、紙を作っている企業との協同研究の一部で、生育困難な土壌で生育する植物の遺伝子を解析することです。また、その原因遺伝子を探索し、遺伝子組換えによってその土壌に対する耐性を得させるというものです。この技術は、今現在や今後の世界で起こる食糧不足問題を改善することができます。自分がそんな大きな問題解決の一端を少しでも担えると考え、とても有意義なことを研究していると感じ、大変やりがいがあります。これからも学業、生活ともにがんばっていききたいので、よろしく願い致します。

奨学会からのコメント

遺伝子組換えに対する日本人の心理的障壁をとり除かない限り自給率は向上しません。その功罪を説くのも科学者の努めです。

イワタ ゴイチ  
**岩田 吾一**

名古屋大学 工学部3年 化学・生物工学科 (岐阜高校)

2年後期は専門系科目のみの履修でした。例えば「流動」という講義では、液体や気体の挙動を基礎から理論的に学びました。この講義で得た知識が実際の工場の配管にも応用されていることなどを知って、大学で専門的に学んでいるんだという実感が以前にも増して強くなりました。毎日が非常に充実していると感じます。

専門科目を学び大変なこともありましたが、例えば、数学の講義では、非常に重要な「フーリエ解析・偏微分方程式」を学びましたが、レポートの問題のほとんどは難易度が高く、1問解くのに数時間を要したこともありましたが、しかし、最終的にはすべてをやり遂げ、評価も良く満足しています。

3年前期は週に3回、授業数のおよそ半分を実験が占めます。これまでにレポート作成に時間を要すると思われませんが、休日を利用し、計画的・継続的に努力していきたいと思えます。

奨学会からのコメント

数学には有名な難問がいくつあって、一生を棒に振るから挑戦しないようにと先生が止めるそうですね。そのとば口の方方程式かな。

オオハシ  
**大橋 あゆみ**

南山大学 人文学部3年 (大垣北高校)

3年生になったので、いよいよゼミが始まりました。私は考古学を専攻することにしました。新学期に先立ち、春休みに土岐の古墳の測量をしました。測量は初体験で、機器の操作にも不安はありましたが、何日かやるうちに最初よりはスムーズに使えるようになりました。それに、測量は1人でできないものなので自然と仲間や同じゼミの先輩方と仲良くなりました。私の入ったゼミは、フィールドワーク(野外で調査すること)がしばしばあり、今年は豊田市の分布調査に行くそうです。また、去年1年間勉強したフィールドワークの授業の最終報告書や、春休みに作成しました。調べたことを、起承転結でまとめるのはなかなか難しく、今まで書いたレポートがいかに手抜きであったかと実感しました。苦労もありましたが、調べたことが本という形で残るので、いい勉強にもなったし、思い出にもなりました。今年は3年生で、大学生生活もあっという間に折り返し地点を過ぎてしまいました。将来を見すえ、いろんなことにチャレンジしていきたいと思えます。

奨学会からのコメント

考古学は南山大の看板。フィールドワークは考古学の基本。豊田市の分布調査から「徳川」や「トヨタ」誕生の謎に迫れるか。

ツボノウチ マキ  
**坪之内 槇**

京都大学 文学部3年 英語学 英文学科 (斐太高校)

今年度から、英語学英文学科への配属となりました。元々興味があるイギリス小説に関しては、春休みの期間を利用して、ディケンズの「クリスマス・キャロル」の原書を自力で読むことに挑戦しました。その他の分野にも視野を広げ、知識を得たいので、今年は古英語の詩の読解の授業やシェイクスピア、イギリス現代演劇に関する授業などを選択します。それと平行して卒業論文作成のためのテーマ探しも、少しずつはじめていこうと思います。大学に入ったら、国を問わずあらゆる小説を読みたいと思っていたこともあり、今までは小説中心の読書をしてきたのですが、これからは評論を読むことも身につけていきたいです。英語で書かれた評論や論文などを自力で読みすすめていくことは、かなり根気が必要で難しく、以前に挫折しているのですが、今年は論文講読の授業もあるので、何とか自力で読んでいく力をつけたいです。

奨学会からのコメント

言語と文化は分かちがたく結びつき、文学を生む。英国の地に立てればその文学を理解する良いよすがに。渡英も卒論も頑張れ。

ホンダ マナミ  
**本田 真波**

金沢大学 教育学部2年 人間環境課程 臨床教育心理コース (郡上高校)

2年生になり、学部の専門科目が格段に増えました。どの科目も、内容としては決して易しいものではありませんが、自分の興味を持てるものが多く、やりがいを感じています。

特に、私の所属する臨床教育心理コースの専門科目である臨床教育心理学基礎論や、カウンセリング実習、人格心理学などは、非常に興味を湧く科目です。臨床教育心理学基礎論では、臨床心理学の定義についてから始まり、現在はフロイトの考えについて学んでいます。カウンセリング実習では、応答技術を理論的にも実践的にも学んでいます。「聞き役に徹する」というのは、思っていた以上に難しいです。また、基本姿勢は「聞く」ことなのですが、カウンセリング実習ということで、適所に相手の心の問題の核に迫るような質問をしなければなりません。ただ単に相手と「おしゃべりする」とは違うので、非常に難しいです。人格心理学は、様々な心理検査法を自分に対して行うことで、その方法を学ぶとともに、自分の心の葛藤と向き合っていくという科目です。現在は夢分析を学んでいます。まずは事例をもとに考えていくのですが、夢の話と、それに関する本人の連想などを総合的に見ていくことで、だんだんと本人の心の問題がわかってきておもしろいです。これから、自分についても分析をしていくのですが、自分の心の闇と向き合うのは大変な労力を要することです。これは教官が言っていたことなのですが、まさにその通りだと思います。これまで意識するのを避けてきた自分の嫌な部分も見ることになるでしょう。精神的に辛くなることもありそうですが、いい機会なので、この授業を通して自分を見つめ直し、一つ成長できたらと思っています。

奨学会からのコメント

自分の心の闇と向き合えば臨床教育心理学が全うできないとあれば頑張れと言うしかない。学問は確かに人間を成長させますね。



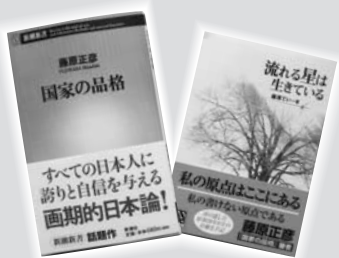
財団法人  
伊藤青少年育成奨学会  
理事・選考委員  
古山 精

### 壮絶『流れる星は生きている』 誇りと自信回復『国家の品格』

4月『国家の品格』=藤原正彦著・新潮新書=を買った。何でも200万部を超すミリオンセラーだそうだが、著者の略歴を見て驚いた。「作家・新田次郎と藤原ていの次男…」とある。私が高校を卒業した1949（昭和24）年、兄が『流れる星は生きている』というノンフィクションを買ってきた。活字に飢えていた私はむさぼり読んだ。その著者が「藤原てい」である。終戦の年、1945（昭和20）年8月9日、ソ連軍は日ソ中立条約を破棄して満州（中国東北部）へ侵攻した。ていは観象台（気象台）勤務の夫・寛人と別れ、生後1か月の長女・咲子を背負い、5歳の長男・正広と2歳の次男・正彦の3人を連れ、無謀ともいえる祖国・日本への引き揚げに挑む。悲惨で壮絶な記録である。新京（現・長春）から朝鮮半島南端の釜山までは約1500キロ。ある日は馬糞の積もった無蓋貨車に揺られ、ある夜は朝鮮農家の牛小屋のワラに眠り、またあるときは母子はだしでの徒歩行。こうして1年1か月後に無事、日本の土を踏む。敗戦の悲惨さと人間の本性を見事に描き出した作品である。

ところで、敗戦により我が国は新憲法を制定して戦争を放棄し、文化国家を目指す高邁な目標を立てた。反面、占領国の圧力で、日本の伝統や文化が抹殺され、すべてがアメリカ化されることが恐れられた。国民だれもが「日本人としての誇りを、最期まで持ち続けよう」と心に期したに違いない。しかし、敗戦から61年経過した現時点で『国家の品格』を読んでみると、政治・経済・教育・社会すべてが裏目に出て悪化した。今の日本に必要なのは、論理よりも情緒、英語よりも国語、民主主義よりも武士道精神であり、『国家の品格』を取り戻すことであるという一あのかたのとき2歳だった著者に、60年後に指摘され、反省し、誇りと自信を与えられた始末。「負うた子に教えられ」とは、このことであろう。

書評によっては「主観的な意見が多いので、一つの意見として受け止めること」とあるが、それにしても著者はずばり明快。私は「このファイトの原点は母・藤原ていにあるのではないか」と思った。再読することにして『流れる星は生きている』=中公文庫=を取り寄せてみた。その表紙の帯には「私の原点はここにある・藤原正彦」とあって、私の想像どおり。納得。



▲「国家の品格」 「流れる星は生きている」▲

## 台湾からの岐阜大学への留学生 黄 慈婷 (コウジテイ) さんからのお便り

奨学会では、本年4月台湾の都市計画の在り方を勉強するために岐阜大学地域科学研究科へ入学された黄さんに対し奨学金を支給しております。以下は、黄さんからのお便りです。



日本に来る前に日本語は半年ぐらいいろ勉強しなくてあまりしゃべれなかったもので、とても不安でした。しかし、時間が立つとともに、少しずつですが日本語もしゃべれるようになり留学生活にも慣れてきました。

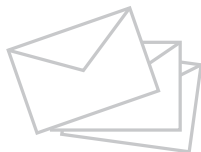
今は、留学生センターの日本語コースを選び、文法と文章表現と文章理解などの授業全部を受けております。毎週11科目の授業があります。授業のない時は専門分野の資料を探したり、日本語授業を復習したりします。そのため毎日忙しいです。

さて、私の研究課題は、「交通計画に於ける台湾と日本の比較」です。都市計画の中で道路建設は重要な役割をしています。基幹となる道路を建設する場合、十分に地域特性や住民の要望を考えたいうえ、綿密に計画を立てて設計をすることで、その地域の生活の向上につながると思います。アジアではこの分野で一番研究が進んでいるのは日本なので、日本に留学することにしました。そして、来年大学院の試験を受けるために、これから一生懸命頑張ります。将来、日本で習った専門知識を台湾で生かしたいと思います。

私は、夏期休暇を利用して8月17日から9月20頃まで台湾へ帰ります。9月末奨学会へ一度訪問したいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

### お便りをお持ちしています

伊藤青少年育成奨学会では皆様からのご意見・ご質問・感想などのお便りをお待ちしています。ハガキまたはE-mailで下記の宛先までお送りください。



### 奨学会からのお知らせ

平成18年度後期奨学金支給のための「生活学業状況報告書」の提出は11月1日～20日となっておりますのでご注意ください。



財団法人 伊藤青少年育成奨学会事務局

〒507-0062 岐阜県多治見市大針町661-1  
TEL 0572-20-0800 (直) FAX 0572-29-1168

E-mail: webmaster@ito-zaidan.or.jp  
U R L: http://www.ito-zaidan.or.jp/  
発行: 財団法人 伊藤青少年育成奨学会  
印刷: 中日本印刷株式会社